

2021年3月29日

2020年度第2回 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人山口学園
ECC国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園ECC国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき2020年度第2回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2021年2月20日(土) 14:00-16:00

2 実施場所 ECC国際外語専門学校1号館 (一部オンライン実施)

3 学校関係者評価委員 ※順不同

(1) 関連業界等関係者

委員長	塩谷 典子氏	株式会社TEI 大阪支店 支店長
	三橋 滋子氏	一般社団法人 日本添乗サービス協会 会長
	下西 由子氏	大阪セントレジスホテル株式会社 ラング アド ディバロップメントスーパーバイザー
	西出 由佳氏	株式会社Kスカイ 旅客・営業部 マネージャー
【欠席】	小椋 圭一朗氏	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 副理事長

(2) 地域関係者

【欠席】	中上 隆雄氏	済美地域社会福祉協議会 会長
------	--------	----------------

(3) 高等学校関係者

	貴治 康夫氏	立命館高等学校 教員
--	--------	------------

(4) 大学関係者

	原 清治氏	佛教大学 副学長 教育学部教授
--	-------	-----------------

4 同席者

瀧山 淳一	ECC国際外語専門学校	学校長
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校	副学校長・教務課責任者
伊藤 功	ECC国際外語専門学校	進学指導センター長
木村 泰一	ECC国際外語専門学校	日本語学科長
新 大承	ECC国際外語専門学校	専門課程留学生コース 責任者
東井 喜美	ECC国際外語専門学校	教務課副責任者
松井 治	ECC国際外語専門学校	グローバルディベロップメントセンター 副責任者
山本 静香	ECC国際外語専門学校	英語課責任者
福本 雄三	ECC国際外語専門学校	進路指導課責任者
岡 恵一郎	ECC国際外語専門学校	広告広報課責任者
新谷 優貴子	ECC国際外語専門学校	教務課専任教員
山本 昂輝	ECC国際外語専門学校	進路指導課

5 報告内容

(1) 開会挨拶【瀧山】

- 本委員会の開催にあたり、緊急事態宣言中の為、一部オンラインで実施をする。
- 運営体制変更により、専門課程留学生コースに新 大承が責任者として着任。
- 今年度は新型コロナの影響により、留学や各種行事などが出来ない1年だった。
- 感染防止策を行いながら、全ての授業を終え、卒業式を残すところとなっている。
- 次年度に向けて、安全な学習環境を提供する為に取り組んでいく。
- 学校概要について説明。

(2) 2020年度第1回学校評価委員会検討事項の対応について【各関係部署担当者】 別紙「パワーポイント資料」に基づき報告。以下特記事項のみ記入

■「教員の考え方、指導方法を統一する必要がある」【伊藤】

- コース毎のディプロマポリシーの明文化。
- 卒業後の進路先での成長イメージの明文化。
- 教職員で情報を共有し、具体的な施策を講じていく。

- 「語学系コースのキャリア教育をカリキュラムに反映。社会人の正しい常識を身に付けることが必要。」【福本】
 - ・今まで任意参加となっていた業界セミナー等の就職イベントを授業内で実施していく。
 - ・挨拶習慣の徹底、時事問題に興味関心を持たせる取り組みを行う。

- 「留学中止に伴い、留学代替プログラムが課題」【山本静、新谷】
 - ・全専攻で対応を行ったが、一部専攻については人数などの影響により専門科目の提供ができなかった。その場合はトピックで専門性をカバーするように努めた。
 - ・次年度は現地セブ講師とのオンラインでの授業を組み合わせたハイブリッド型留学の実施を検討している。
 - ・今後は学生のモチベーション維持が課題。
 - ・オンライン留学においては、前向きに取り組む学生と消極的な学生とで2極化している。今後は前向きな層を増やしていくために工夫を重ねていく。

- 「英会話において立場が上の方と会話練習をする機会」【松井】
 - ・トピックトークやディスカッションを中心に進めているEIP内にて、敬語の使い方をトピックの1つに取り入れる。
 - ・また、インスタグラムで配信している英語コンテンツにも敬語等のトピックを取り入れていく。

- 「教員を採用する際の採用方法や具体的な選考基準」【東井】
 - ・ECC 国際外語専門学校が求める教員像の再度見直しを図る。
 - ・社会で求められる人材像の変化に対応して、新たな選考基準、方法を明確に定め採用試験を行う。

- 「主体性、積極性に欠ける学生への対応、目標設定を行い、自身に足りない部分に気付くことが必要」【東井】
 - ・授業を「教える」から「自ら学ぶ」形にシフトする。その為に教員の意識改革を行っていく。
 - ・入学～卒業までの成長イメージを教員と学生がともに共有し、学生の支援に取り組む。

- 「学生アンケートにおいて在籍者よりも卒業生が振り返って評価したほうが参考になる意見が多い。学生が何が出来るようになったのかを把握できるよう、振り返る機会を多くとることが必要」【瀧山】
 - ・現在行っているアンケートの結果を分析し共有する場を設ける。
 - ・「卒業生アプリ」を普及させ、卒業後も意見をもらえる体制をつくる。

- 「大学生に比べて柔軟性に欠ける部分がある。体験型プログラムや自身の経験を発信できる場が必要」【大谷内】
 - ・現在のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに人間力の要素を追加する。
 - ・英語学習を現在の4技能強化から7技能強化に増やし取り組んでいく。

- 「留学生の日本のマナー、敬語」【新】
 - ・実際のビジネスシーンを想定した、演習を主体とした授業の実施。
 - ・企業と連携して取り組む。

- 「企業アンケートの結果と分析」【福本】
 - ・2018年3月卒生以降、ECC生を採用頂いた企業228社に対して実施。
 - ・「リーダーシップ」「プレゼン力」「ITスキル」が標準レベルの評価に留まった。今後の課題と捉え、教務課と連携し改善に向けて取り組む。

委員からの意見・質問等

【貴治委員】

キャリア教育について、時事問題に興味を持たせる上での取り組み案は？

⇒【福本】就職対策授業内等で、新聞などを活用し、時事問題をトピックスとして取り上げ、その問題に対して考え、自身の意見を持たせる習慣を身に付けていく。

【下西委員】

非常によく取り組まれていると感じる。今後は新たな課題についてさらに対応を重ねていくことで、教育の質も上がっていくと考える。また、今後留学生が日本で働く上で、何がしたいのかを考える場が必要だと思う。実際に採用現場で留学生を見ていても、熱意を感じられない学生が目立つ。

【西出委員】

学生のプレゼン力について、発信力のない学生が多いと感じる。また、新型コロナにより発信する場もなくなってきている。その中で、時事問題に関する取り組みは、発信力向上につながると考える。今後取り組んでほしい。

【原委員】

今後はWITH コロナの中でも学びを止めない事が課題。学習成果については、点数などの数値結果だけでなく、人間力や学生指導力なども発信できると尚良い。数値で測ることの出来ないところを認識する必要があり、そのような転換期にあると思う。

【三橋委員】

首都圏の大学では、WEBでの授業に切り替わっている所が多くある。

ECCではどの様に取り組まれているのか？

⇒【東井】今年度は後期よりWEB授業を取り入れ、対面式と並行して授業を行った、次年度はオンライン、オンデマンド、対面の3パターンで取り組んでいく。

(3) 2020年度学校運営振り返り【各関係部署担当者】

別紙「パワーポイント資料」に基づき報告。以下特記事項のみ記入

■募集【大谷内】

- ・大変厳しい1年となった。オープンキャンパスへの集客が落ち込み、出願数が昨年に比べて減少した。
- ・新型コロナの影響で、イベントの中止が相次いだ。
- ・観光系分野への興味関心が減少した。
- ・今後はオンラインを活用し、認知拡大を目指す。

■教務課【東井】

- ・前期は環境整備が不安定なまま、オンラインへの切り替えを行ったため、学生満足度が下がってしまった。
- ・後期は改善を繰り返し、オンラインコンテンツを充実させることで昨年に近い満足度となった。
- ・観光系業界への就職、留学がまだまだ厳しい状況により進路変更が目立った。

■英語課【松井・山本静】

- ・英語学習において、後期よりハイブリッド型、反転授業に取り組んだ。
- ・反転授業について、学生、教員からは当初に比べて前向きな意見が出ている。
- ・ELCプログラム、EIPプログラム共に新型コロナの影響により利用者数減少。
- ・オンライン留学においては、後期よりハイブリッド型で取り組んでいる。

■進路指導課【福本】

- ・就職指導計画の大幅な見直しを余儀なくされた。
- ・本学の就職指導のコンセプトである「早期活動早期内定」の流れに乗ることが出来なかった。
- ・最も新型コロナの影響を受けたエアラインコースでは、学んだ語学力と接客マナーを活かし、ホテルなどの接客職を中心に就職を決めている。

■大学編入【伊藤】

- ・延べ合格者数は149名ではなく173名。※資料数値の訂正
- ・一般の大学試験と同様に、安全志向がはたらき、中堅下位私大の合格者が増加した。
- ・募集要項を公表した後、試験内容を変更する大学も出てきており、ECC生の強みである語学力が評価されないケースもあった。

■留学生専門課程【新】

- ・オンライン面接において、ネットワーク環境の影響で質問を聞き直した際に、日本語力不足と見なされるケースが多発した。
- ・オンライン上での日本語での伝え方が課題。

■日本語学科、国際コミュニケーション学科【木村】

- ・4月以降海外からの留学生が入国できなかった。
- ・入国予定者200名中13名のみ入国。
- ・日本留学試験が前期中止になり、大学、大学院試験にも影響が出た。
- ・Zoomによる少人数でのリアルタイム授業により、細やかなサポートが出来た。

委員からの意見・質問等

【原委員】

データの蓄積と分析方法が今後重要となる。例えば募集において早期に入学が決まった学生の授業満足度や就職状況など、タイプ別の成果を分析していくことが大切。その為にもPDCAサイクルを回して、戦略を立てていくことが大事。

【貴治委員】

反転授業実施について、弊社でも実施したがあまり成果が出なかった。

ECCではどうか？

⇒【山本静】上位層の学生については上手く進めることが出来たように感じる。

しかしながら下位層については、そもそも課題への取り組みがわからないなど、成果が芳しくなかった。また、教える側の教員も初の取り組みの為、手探り状態で進めた。次年度も模索しながら進めていく。

(4) 2021 年度学校運営について【瀧山】

- これまでの「国際力×人間力×専門力」のスローガンに加え、「ICT活用力」を掛け合わせ、より進路に強い学校を目指していく。
- 人材育成目標の3点について説明。
- 第三者評価受審に向けて、準備を進めていく。
- 新入生へノートPCを配布（在学期間中無償貸与、卒業時譲渡）することで、新型コロナ状況下でも学びを止めない学習環境を整備していく。
- 人間力向上を目指し、3年制コースの拡充を図る。

委員からの意見・質問等

【西出委員】

今後オンラインで面接試験を行う動きが主流となり、オンライン対応力は必要と考える。特にWEB上のマナーは大切で、Zoomであれば名前を入力方法や、聞く姿勢など（うなずくなど）の基本的なマナー向上を図り、ITに強い人材育成を目指してほしい。

【下西委員】

ITスキルについて、習得も大事だが今後はどのように使うかが重要となる。

【三橋委員】

ECC生の強みは語学だと考える。新型コロナ収束後、インバウンド客対応で語学を活かす機会が戻ってくると思うので学習に励んでほしい。また、添乗サービス協会でも、インバウンド検定などを実施しているので、挑戦してほしい。

【貴治委員】

21年度の取り組みについて、高等学校でも同じ課題を抱えている。IT対応として、次年度は新入生全員にiPadを持たせて取り組んでいく為、教員のITスキル向上が必要となっていく。新たな時代に向けて対応していきたい。

(5) 全体総括【塩谷委員長】

- 教育の情報化とは単なる機械化ではなく、授業効率を高め、教職員と生徒間でのコミュニケーションの機会を増やし、学生が主体的に学ぶ環境をつくり出す手段だと考える。今後さらにICT環境整備を推進してほしい。

(6) 閉会挨拶【瀧山】

- 委員各位からの貴重な意見を基に、今後も学校運営を行っていく。
- ITに関する話題が多かったが、対面、オンラインそれぞれの長所を活かし、上手く併用しながら取り組んでいきたい。
- アフターコロナにおける、新しい学びのスタイルを作り上げていく。
- 小椋委員、下西委員、三橋委員は本委員会をもって任期満了となる。長きに亘り、ご助言賜り誠にありがとうございました。

⇒**下西委員** 数年にわたりこのような機会をいただきありがとうございました。委員会を通じて学校教育、社会、企業の繋がりについて改めて考えるようになった。今後は社会人になる学生を、違う形でサポートしていきたい。

⇒**三橋委員** 現在観光産業は厳しいが、新型コロナ収束後には優秀な学生を受け入れ、業界の活発化を目指していく。今までありがとうございました。

以上